

箱根産ニッコウコウガイゼキショウについて

勝 山 輝 男

Teruo KATSUYAMA : *Juncus nikkoensis* (Juncaceae)
found from Hakone in Japan

ニッコウコウガイゼキショウ *Juncus nikkoensis* SATAKE は佐竹 (1938) によると花序が小型で枝が斜上または直立すること、雄しべが花被片と同長なこと、さく果がより太いことなどでアオコウガイゼキショウから区別されている。しかし、最近ではアオコウガイゼキショウ *Juncus papillosus* の山地性の一型とする意見 (北村ほか, 1980) もあり、地方植物誌や図鑑類では取り扱われることが少ない。今回、ニッコウコウガイゼキショウとアオコウガイゼキショウの生品を同一場所で観察する機会を得た。その結果、ニッコウコウガイゼキショウはアオコウガイゼキショウとは相当に異なる形態的特徴があり、別種として区別するのが妥当と結論できたので報告する。

箱根町立大涌谷自然科学館の石原龍雄氏より箱根お玉ヶ池で採集されたアオコウガイゼキショウとニッコウコウガイゼキショウと思われる植物の標本が送られてきた。そこで、1992年10月9日に現地調査を行い、両者の生育を確認した。お玉ヶ池では双子山側の沢からの流水に沿って湿った裸地があり、そこにニッコウコウガイゼキショウがアオコウガイゼキショウやハリイなどと混生していた。

ニッコウコウガイゼキショウの花序の枝は狭い角度で出て1~3回枝分かれし、頭状小花序も3~10、最大でも15個程度である。一方、アオコウガイゼキショウでは花序の枝は開出し3~4回枝分かれして、15~60個以上の頭状小花序をつける。一つの頭状小花序に含まれる花数はニッコウコウガイゼキショウでは4~12個と多く、アオコウガイゼキショウでは2~6個と

少ない (図1)。ニッコウコウガイゼキショウは一つの頭状花序に含まれる花数が多いので、全体の形はアオコウガイゼキショウというよりも、むしろコウガイゼキショウに似ている。しかし、コウガイゼキショウは葉が多管質なので、葉が単管質のニッコウコウガイゼキショウやアオコウガイゼキショウとは容易に区別できる。

ニッコウコウガイゼキショウでは開花時に雄しべと花被片とはほぼ同長で、比較的大きい葯が目立つ。一方、アオコウガイゼキショウでは雄しべは花被片よりもやや短く、葯も比較的小さい。また、開花時にニッコウコウガイゼキショウの花被片はほとんど開かないが、アオコウガイゼキショウでは花被片が半開する (図2 A,B)。

さく果はどちらも花被片の2倍程度の大きさになるが、ニッコウコウガイゼキショウではやや大きく長さ4~4.5mm、幅1mm、褐色に熟す。アオコウガイゼキショウの方が細身で長さ3.5~4mm、幅0.8mm、やや赤みがかった褐色に熟す (図2 C,D)。

ニッコウコウガイゼキショウもアオコウガイゼキショウも引き抜くと短い地下茎の先に越冬芽を作っている。

アオコウガイゼキショウは平地の富栄養な湿地では高さ30cm以上になり、花序も大きく開出したものをつける。しかし、山地の貧栄養な湿地では高さ10cm程度で花序もあまり大きくなりません。今回、箱根お玉ヶ池でニッコウコウガイゼキショウと同一場所に生えていたアオコウガイゼキショウはこのような小型のものである。ニッコウコウガイゼキショウをアオコウガイゼキショウの山地性の一型とする見解はこのような小型

のアオコウガイゼキショウをニッコウコウガイゼキショウと誤認したものではないだろうか。

「日本の野生植物（平凡社）」（佐竹，1982）にアオコウガイゼキショウとニッコウコウガイゼキショウの両者の写真が掲載されているが，この写真でも両者の区別は可能である。

佐竹（1938）ではニッコウコウガイゼキショウの産地として相模をあげている。「神奈川県植物誌」（神奈川県博物館協会編，1958）には箱根があげられている。しかし，「神奈川県植物誌1988」（神奈川県植物誌調査会編，1988）で集められた標本の中にニッコウコウガイゼキショウと思われるものは含まれていなかった。今回，ニッコウコウガイゼキショウが箱根に生育していることが再確認できた。

コウガイゼキショウの仲間のうち種子が無尾，葉が単管質のものは日本にはタチコウガイゼキショウ *J. krameri* FRANCHET et SAVATIER，ニッコウコウガイゼキショウ *J. nikkoensis* SATAKE，アオコウガイゼキショウ *J. papillosus* FRANCHET et SAVATIER，ハリコウガイゼキショウ *J. wallichianus* LAHARPE の4種が含まれる。互いによく似ているのでこれらの検索表を示しておく。

A. 雄しべは6本（減少することもある）。さく果は鈍頭凸端で花被片より少し長い程度

.....タチコウガイゼキショウ

A. 雄しべは3本。さく果は花被片より明かに長く2倍に達することもある

B. 雄しべは花被と同長。花序の枝は直立または斜上し，頭状小花序は3～10個。頭状小花序は4～12花よりなる

.....ニッコウコウガイゼキショウ

B. 雄しべは花被よりやや短い。花序の枝は開出し，頭状小花序は15～数10個。頭状小花序は2～6花からなる

.....アオコウガイゼキショウ

B. 雄しべは花被片の半長。花序の枝は開出し，3～30の頭状小花序からなる。頭状小花序は3～10花。水の多い所に生えたものは基部が倒れ，芽生することがある

.....ハリコウガイゼキショウ

最後に，いつも箱根産の植物の情報を提供して下さる箱根町立大涌谷自然科学館の石原龍雄氏，比較の

ための標本を多数集めてくださった神奈川県植物誌調査会の皆様に御礼申し上げる。

文 献

神奈川県博物館協会編，1958. 神奈川県植物誌. 3+257pp., pls. 8. 有隣堂，横浜.

神奈川県植物誌調査会編，1988. 神奈川県植物誌1988. 1442pp.. 神奈川県立博物館，横浜.

北村四郎・村田 源・小山鐵夫，1980. 原色日本植物図鑑Ⅲ（改訂版）. 4+465pp., pls. 108. 保育社，東京.

佐竹義輔，1938. 大日本植物誌トウシンソウ科. 103pp., 三省堂，東京.

佐竹義輔，1982. 佐竹義輔他編，日本の野生植物草本編Ⅰ. pp. 66-72, pl. 60-65. 平凡社，東京.

杉本順一，1973. 日本草本植物総検索誌 単子葉編. 630pp.. 井上書店，東京.

（神奈川県立博物館）



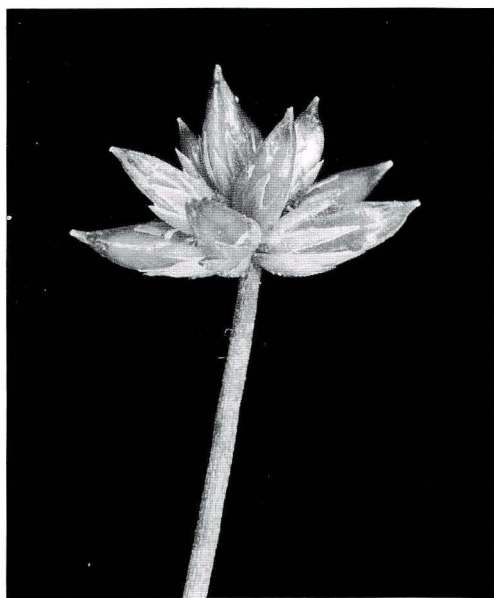
図1. A:ニッコウコウガイゼキショウ *J. nikkoensis* の花茎,
B:アオコウガイゼキショウ *J. papillosus* の花茎



A



B



C



D

図2. A:ニッコウコウガイゼキショウ *J. nikkoensis* の花, B:アオコウガイゼキショウ *J. papillosus* の花, C:ニッコウコウガイゼキショウ *J. nikkoensis* のさく果, D:アオコウガイゼキショウ *J. papillosus* のさく果